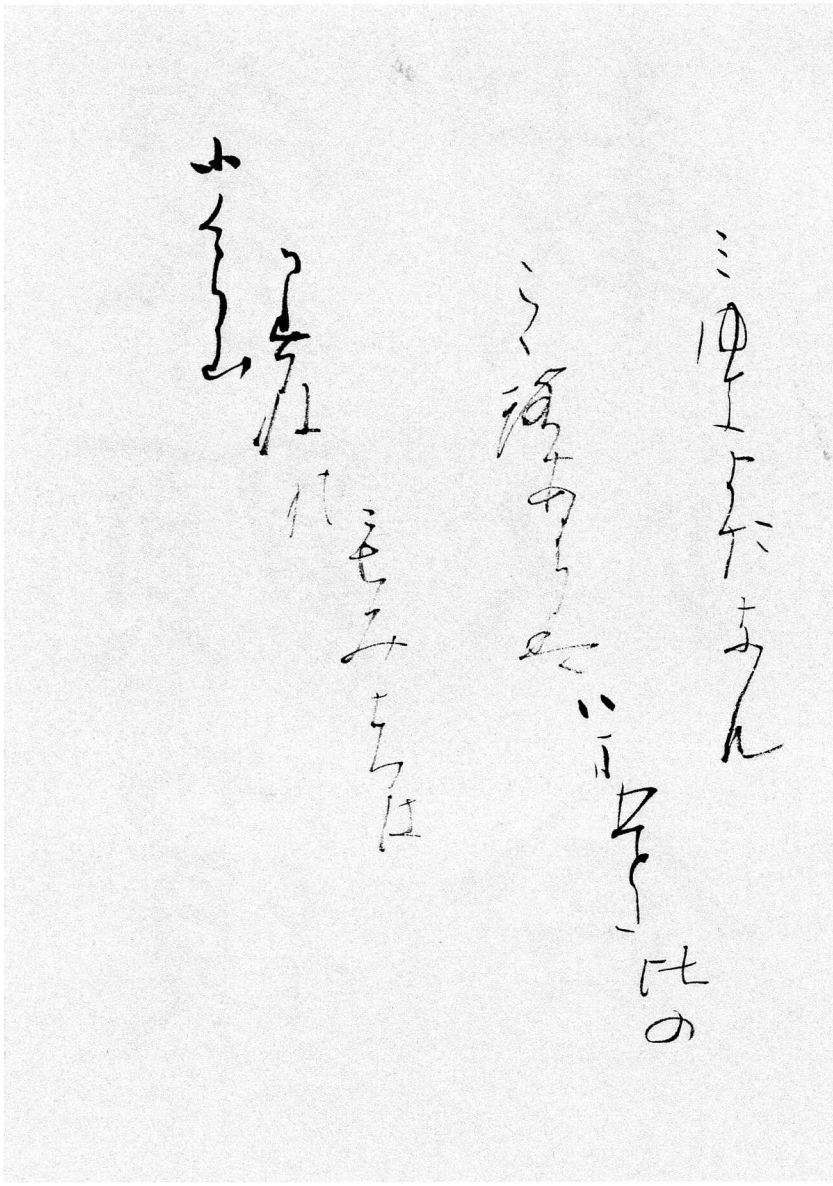


『百人一首』 中村素堂先生の仮名散らし書きの魅力 (三)

小倉山せくらやま峰みねのもみぢ葉は心こころあらば 今いまひとたびのみゆき待たなむ

貞信公ていしんこう

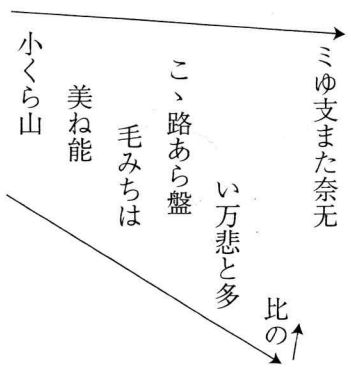


〔歌意〕  
「小倉山の峰のもみぢ葉よ、もしそなたに心があるならば、もう一度の行幸(みゆき)までそのまま散らずに待っていてほしい。」

この歌は『拾遺集』(雑・一二二八番)に出ています。  
○みゆき 天皇の行幸。

(貞信公)  
藤原忠平。(八八〇〜九四九)年、七〇歳。

〈字母〉



風になびくしだれ柳のように書かれています。特徴は左から書き始め右の行に向かって完結しています。

中村素堂先生の書 大島香菊様提供

(青藍)